

乙秘第七七二号 八月一日

外務大臣辞職勧告届

自由党ニ於テ起稿中ノ外務大臣ニ對スル辞職勧告届ハ今
明兩日ノ中ヲ以テ送達スルノ運ニ至ルヘシトノ説アリシ
カ今其脱稿シタルモノヲ聞クニ左ノ如シ

謹啓於暑ノ時節ニ御坐候家閣下益々御健穩日夜政務ニ
御鞅掌被宥在候事畢竟國家ノ為メ御尽瘁相成候儀トハ
乍申小生等ニ於テモ深ク感謝ノ意ヲ表シテ止マザル所
ニ御坐候陳者曩日布哇移民変件ヨリ同困ニ對スル四際
文涉相起リ候處該件本末ノ性質タル格別重大至難ナル
意味ハ含シ居リ候儀ニ由之候故ニ小生等ニ於テモ實ハ
賢明ナル閣下ニシテ外務大臣ノ職ニ被宥在候以上ハ眞
姐ノ間ニ徒容辭紛ノ切ヲ奏セラル、コト極メテ容易ノ



件ト信シ安意罷在候然ルニ不幸ニモ該件ハ意外ノ障碍
ヲ来シ今日トナリテハ度難甚ク困難ニ卦キ候設國家ノ
有メ如何ニモ慨嘆ニ堪ヘサル次第ニ御座候小生等今更
申上候迄之趣之候得共初メ移民問題ノ起ルニ際シ閣下
ニハ尤モ強硬ノ手段ヲ以テ之ニ臨マレ動カスルハ布哇
政府ヲ威迫スル如キ御決判モ有之候哉ニ傳聞罷在候ノ
コナラヌ現ニ帝國軍艦浪速号ヲ同國ニ派遣相成候如キ
ハ何分ニモ弱國ニ對シ脅迫威壓ヲ加フル外ニ意味有之
義ト存セラレ不申候元来布哇ノ如キ殆ント兵備ナキ弱
國ニ對シ斯ル脅迫々同敷方法ヲ御採用相成候ハ却テ國
家ノ威信ニモ損シ異日米國トノ間ニ不快ノ感情ヲ惹起
スノ虞アラサル乎ト小生等竊ニ憂慮罷在候處果セル哉
閣下ノ御採用相成候威壓手段ハ布哇政府ニ合併ヲ促スノ

好口実ヲ云フルト相成候現ニ彼ノ政府ハキニ一カ
サル、スソスツルストン諸氏ノ如キ最モ熱心ナル合併論
者ヲ米國ニ特派シ米國政府ニ説カシムルニ日本ノ脅迫
威壓ニ遭ヒ到底一孤島ヲ以テ太平洋上ニ独立スルコト
ノ困難ナルヲ以テセシ次第ニ立至リ候勿論當時米國ニ
於テハ彼ノ合併論ヲ主張シタルマツキンレー氏ノ政府
トナリ國會ホレバグリカン党其多數ヲ占ムルカ如キ度
情ナルヨリ賛成カ其氣運ヲ進メタルニ相違無之候得共
閣下ノ御採用相成候威壓手段ハ大ニ合併論者ニ好口実
ヲ云フルコト、相成リタルハ争フ可カラサル事情ニ御
座候一時ノ失策ヨリ苟クモ對手國ヲシテ間ニ乘スルノ
口実ヲ得セシメタルハ却スルニ遺憾千万ノ仕合ニテ
小生等ノ慨嘆措ク能ハサル所ニ御座候小生等ハ此一

ニ於テ何故ニ賢明ナル閣下カ斯ノ如キ賭場キ下策ヲ行
フテ噬臍ノ悔ヲ後日ニ貽スノ御處置ニ出テサセラレシ
歟是レ殆ト了解ニ苦シム所ニ御坐候下俾外交ノ責ハ瞬
刻モ忽諸ニ付スヘカラサルモノニ有之候得ハ深謀遠慮
アル閣下ニ於カセラレテハ必ス之カ善後ノ方策ヲ講シ
國家ノ驍面ヲ救損セサル様充分ナル方法ヲ御計畫相成
候事ト豫想仕候處豈測ラシヤ移民問題ハ到底彼ノ政府
ニ於テ我要求ヲ拒絶シ終ニ第三國ノ仲裁ニ一任セント
ノ議ヲ主張シ閣下ニ於テモ右仲裁ノ議ニ御同意相成メ
ルヤニ兼リ及ビ候尤モ右仲裁ニ依リテ本件ノ局ヲ終結
スルノ可否ニ到リテハ今茲ニ御張諭申上候所存魚御坐
候得共最初骨通手段ヲ以テ飽追我ノ要求ヲ達セントス
ル御方針ト第三國ノ仲裁ニ一任シテ彼我ノ申直ヲ判断

セシムル御方針トハ實ニ局面一変シタル次第ト確信仕
候抑モ一國ヲ代表スル外務大臣ニシテ一夕ニ外交方針
ヲ定メタル以上ハ飽追其方針ヲ貫徹セラレ候コソ實ニ
其任務ヲ尽シタルモノト存セラレ候若シ中途ニシテ其
方針ヲ貫徹スル能ハサル場合ニ遭遇セハ其方針ヲ放棄
スルト同時ニ其職ヲ辞シ当局者ノ交遊ニ依リテ外交ノ
局面ヲ一変シ始メテ一國ノ面目ヲ維持シ得ルコト、思
料仕候然ルニ閣下ハ現ニ外交方針ノ蹉躓ヲ視テ其局面
ヲ一変スルノ已ムヲ得サルニ遣ヒ而モ猶依然トシテ其
御取務ニ従事相成候義ハ責任ヲ負視スル者ニシテ賢明
ナル閣下ニ似合シカラサル御度ト存シ候殊ニ布哇問題
ハ倉々米四元老院休暇ト相成候爲メ未タ其決局ヲ告ク
ルニハ至ラズ候得共斯ノ如キ外交上ノ失体ハ閣下其責

二任し御辭取ノ事万止ムヲ得ル儀ト相信候前陳ノ次
第十ルヲ以テ小生等ハ我國家ノ体面ヲ維持セシカ有メ
閣下ニ御辭取ノ義乍本意御勸告奉申上候間小生等微
衷ノ在ル所ヲ御察ノ上速ニ御處置相成度茲ニ滿腹ノ
禮意ヲ表シテ閣下ノ御容納奉仰候早ニ拜具

自由党総代

- 松田 正久
- 鈴木 充美
- 重岳 董五郎
- 石塚 重平
- 谷河 尚忠
- 高橋 安爾

外務大臣伯爵大隈重信殿閣下

